

中国におけるアマチュア野球の現状： 草野球チームに着目して

スポーツ文化研究領域

5022A067-3 FAN Tao

研究指導教員：川島 浩平 教授

1、本研究の課題

中国でプロ野球が始まったのは2002年だが、中国人が中国で野球をプレーした最初の記録は1891年にさかのぼる。それでも、野球が中国でメジャースポーツになることはなかった。現在、中国には4つのプロ野球チームがあり、アマチュア野球は学生野球、営利を目的とした会員制野球クラブ（高い野球競技レベルであった元 CBL 経験者が発足させた会員制野球倶楽部で、入会費と月謝で運営している）¹、非営利の草野球チームに分けられる。草野球は、プロ野球とは異なり、野球をレジャーとして捉え、金銭的な利益を求めず、自発的に参加するメンバーによって組織されている。しかし、中国におけるプロ野球や学校野球については多くの研究がなされているが、草野球に関する研究は限られている。本研究では、中国の草野球チームの現状を明らかにすることを試みる。

本研究は、草野球に対する実践者の思い入れや感情、西洋文化の影響、存続の可能性などに注目しながら、（1）草野球を現代中国のスポーツ界、野球界に位置づけ、さらに（2）草野球の方向性と将来性を検討することを目的とする。

2、研究方法

（1）文献調査と社会調査に基づいている。文献調査では、中国野球を扱った先行研究およびアマチュア野球に関する文献資料を渉猟する。社会調査では、草野球チームメンバーへの聞き取りをおこなうことと、アマチュア大会やチームに関わる情報の検索すること。

（2）インタビューの概要

期間：2022年11月～2023年2月

対象：10人、11回（平均は1回1時間）

形式：オンライン会議（9人）、対面（1人）

本研究で紹介するインタビューの協力者は10名（①～⑩）である。インタビューは、対象者の許可を得て録音し、その後、文字化した。インタビューを通じて、それぞれのチームの活動内容、運営形態、参加人数などを知ることができたほか、参加者が中国の野球の現状についてどのように考えているのかも知ることができた。また、その地域の他の野球チームについての情報も知ることができた。

3、研究の構成

第1章では、中国における野球の歴史について述べていた。野球は、日本では野球、アメリカではベースボール、中国では「棒球」と呼ばれている。なぜ「棒球」になったのか、筆者は「棒球」の由来について情報を見つけないことができないが、「棒球」は音訳でも意識でもない。「棒」はバット、「球」はボールを指すが、バットでボールを打つことから、ものを見てから生まれた言葉と考えられる。

第2章では、国際大会での成績、野球の発展を取り巻く制度的環境、人口データ、若年層のスポーツ好み、全国運動場統計など、野球関連のデータを探してみた。これらの情報から、野球の現状を検討していく。中国の野球チームは2006年以降のWBCとオリンピックでの成績が振るわず、国際大会での敗退が続いている。これは中国の野球の実力が

¹松岡弘記、樊孟（2019）「中国における会員制野球倶楽部の誕生による中国野球の普及発展の可能性」愛知大学体育学論叢（26）

不足していることを示唆している。一方で、若年層の好みや全国の運動場データからも、野球の普及がまだ十分でない現状が浮かび上がっている。しかし、礼儀やチームワークが養えるとして、子どもに野球を習わせる親が増えつつあり、2019年には約850万人が野球に参加している。さらに、杭州アジア大会セカンドステージで中国代表が日本を1-0で破ったことで、中国代表チームの成長が見られた。『中国野球産業中長期計画』では、野球関連産業の市場規模拡大を目標に掲げている。これにより、中国で野球の人气が徐々に高まっているといえるだろう。

第3章では、本研究で調査した3地域のチームを紹介し、これら3チームの現状を把握することで、3地域の草野球チームを取り巻く環境や他チームの活動状況を把握することができる。また、本章では経済発展都市である上海と北京のアマチュアリーグを一覧し、両都市のアマチュアリーグの共通点と相違点を比較した。

第4章では、中国の野球に対する日米の影響を分析し、その結果、中国の野球は日米の影響を受けて発展しており、中国人は日米の文化によって野球を知り、野球に取り組んでいることを示した。本章を通じて、草野球参加者は野球を知り、ソフトパワーの構成要素の一つである文化の影響を受け、野球関連情報が日米を知る手段の一つとなり、日米の野球に興味を持ち、ひいては日米への理解を深めたことになると考えられる。

第5章では、「遊び」と「日米野球」の議論を通じて、中国の草野球は遊びの要素がより多く含まれていること、中国の野球参加者が野球をレジャーとして捉え、野球は彼らにポジティブな影響をもたらしていることを検証していた。中国における草野球チームで男女が一緒にプレーすることは一般的な社会現象であり、第6章では上海リーグにおける「無差別なルール」を検討し、このルールが有意義な試みであることを示した。

4、結論

本研究は中国における草野球の現状を論じたものである。本研究では、上海、北京、雲南の草

野球チームメンバーにインタビューと現状調査を行い、3地域の草野球チームの現状と参加環境、野球が中国人参加者に与える影響、中国の草野球の特徴について明らかにした。

スポーツそのものがその地域の文化を反映している。本研究では、中国の草野球を研究課題とし、スポーツ文化という視点を通して、このスポーツを異なる視点から見ることを示す。中国における野球の現状は、一般に認識されている技術レベルの低さ、参加者の少なさ、球場の少なさといった問題にとどまらない。中国の野球はしばしば日本やアメリカに劣ると考えられている。アマチュア野球クラブは日本式野球を参考にしており、野球愛好家の生活も日米文化の影響を受けている。しかし、良い環境が整っていない中で、中国人はこのスポーツに情熱を注ぎ、その普及を目指している。中国の野球は日本やアメリカの影響を受けている一方で、中国の草野球という独自の野球の世界を創造している。この世界では、草野球のメンバーは自発的にチームを維持し、社会人になってからプレーを始める人も多く、男女ともに同じグラウンドで得点を競い合う。中国の草野球が注目に値するのは、この野球の世界では遊びの要素が生きており、将来的には男女協働が可能になるからだ。本研究を通して、読者たちが中国における草野球の実践に目を向け、野球という世界の奥深さと幅広さについて理解を深めてくれれば幸いである。

5、研究の限界

中国には22の省、5つの自治区、4つの直轄市、2つの特別行政地区（香港・マカオ）という行政区分が存在する。地域間の経済発展の不均衡もあり、野球場がなくアマチュアチームがある都市もあるし、野球場があり大学チームが多い都市もあるなど、野球の参加環境にも違いがある。本研究で調査した雲南省は前者に属し、北京市や上海市は後者に属する。本研究は2つの市と1つの省の草野球チームを調査したにとどまり、サンプルとしては不十分であり、他の地域の草野球事情を調査することが今後の課題と考えられる。